

(別添 3)

【王寺町】
校務DX計画

文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1. 校務支援システムのクラウド化

学校現場において様々な校務で利用している校務支援システムについて、教職員間での会議資料等のペーパーレス化、教職員等の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする環境を構築するため、文部科学省「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況を注視しつつ、教職員と学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図るなど、次世代の校務デジタル化に向けた校務系ネットワーク・システム等の現状分析や望ましい校務の在り方に関する検討を行い、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指す。

2. 校務系および学習系ネットワークの統合

今後、校務系・学習系ネットワークの統合については、ゼロトラストセキュリティの考えに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じることを前提としたうえで調査研究を進める。ネットワークの統合により校務系・学習系でそれぞれ別の端末を整備する必要がなくなり、整備コストの減少が図れる。

3. FAX・押印の原則廃止

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時など FAX の方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。

4. デジタル採点システム

義務教育学校前期課程・後期課程ともにデジタルドリルの活用が進む一方で、学校現場では紙のテストの採点業務が教職員の負担になっている。

令和6年度に教職員の負担軽減を図るため、後期課程においてデジタル採点システムを導入し、採点業務時間の削減を図っている。今後は実際の使用状況の調査研究を元に今後も継続して使用するか、また、前期課程においても導入すべきか検討を行う。